

—農場管理を“見える化”し、食の安全を確保する最新手法GAP—

## ＜2014年 GAP 普及大賞＞

### 魚沼コシヒカリの産地が受賞！

JA と行政が連携した GAP 普及の取り組みが評価されました。

日本 GAP 協会（理事長：木内博一）は、7月3日に GAP 普及大賞の選考委員会を開催し、JA 北魚沼 GAP 部会の取り組みを含む3つの GAP 普及の優良事例を表彰することを決定しましたので、ご報告致します。

#### ■GAP 普及大賞受賞者：JA 北魚沼 GAP 部会（新潟県）

日本を代表する良食味米である魚沼コシヒカリの産地において、JA と行政が密接に連携し、多くの農業者が容易に GAP に取り組める仕組みを構築したことが、穀物の分野における GAP 普及の好事例として高く評価されました。

魚沼コシヒカリの産地である JA 北魚沼は、北魚沼米のブランド力向上と地域営農活動の持続的発展に向け GAP 部会を設立し、平成 25 年 8 月に JGAP 団体認証を取得して以降着実な前進を続け、現在では 22 農場、作付面積にして 200ha をカバーする JGAP 認証となりました。

この取り組みのポイントは、JA が代表となって団体認証を受けるシステムをとったことにより、農業者向けのマニュアルの簡素化を実現できたことに加え、共通の帳票類の作成や、独自のシステムである携帯メールの活用など、多くの農業者が GAP 認証に容易に取り組める仕組みを JA が構築したことです。また、これには魚沼農業普及指導センター、地元の魚沼市との密接な連携が大きな役割を果たしており、例えば研修会の開催については JA と普及センターが交代して主催することにより、活発できめ細かな GAP の普及を実現しています。また、これらの活動は JGAP を取得していない農家も含めて産地全体で進められています。

なお、JA 北魚沼管内では、JA の支援により GLOBAL G.A.P. の認証を取得した農場が 1 件ありますが、輸出を考えている卸売業者向けの取組みとなります。一方で、JGAP の導入はより多くの生産者へ取組みを広げ、JA 北魚沼の生産者全体の農産物の安全に対する意識の底上げを図ることを目的としているところです。

JA と行政が密接に連携した JA 北魚沼 GAP 部会の取組みは、穀物の分野における GAP 普及の好事例として、高く評価されました。

## NEWS RELEASE

GAP 普及大賞は、今年一年間で最も GAP の普及に貢献した取り組み事例を表彰するものです。  
2014 年 GAP 普及大賞の選考委員は次の通り。

中嶋康博（東京大学大学院農学生命科学研究科 教授）

岩元明久（日本農業普及学会 常任理事）

迫田登稔（農研機構 中央農研センター 上席研究員）

JA 北魚沼 GAP 部会の取り組みに加え、下記の 2 事例が同時に受賞しました。いずれも全国の模範となる素晴らしい GAP 普及の優良事例です。

### －GAP 普及大賞－

■国内随一のじゅんさい産地において GAP による高品質化を目指す取り組み

<受賞者> 三種町森岳じゅんさいの里活性化協議会（秋田県）

### －特別賞－

■高校生による生産・加工・販売を通じた幅広い活動を後押しする高度な GAP への取り組み

<受賞者> 山形県立上山明新館高等学校（山形県）

以上、3 受賞事例につきまして、下記のシンポジウム内で表彰式と受賞者による記念講演が行われます。ぜひご来場ください。

### ■シンポジウム「GAP Japan 2014」

日時：2014 年 7 月 31 日（木） 13 時から 17 時

場所：東京大学 弥生講堂（東京都文京区弥生 1-1-1）

関連ホームページ：[http://jgap.jp/LB\\_06/index.html](http://jgap.jp/LB_06/index.html)

問合せ先：荻野（おぎの） TEL 03-5215-1112 FAX 03-5215-1113 E-mail: [info@jgap.jp](mailto:info@jgap.jp)

（取材を希望される場合は、下記を記入の上、FAX または E-mail で送付ください。）

御社名 \_\_\_\_\_ 部署名 \_\_\_\_\_ 御名前 \_\_\_\_\_

住所 \_\_\_\_\_ 電話番号 \_\_\_\_\_